



# NPO通信

**2011 年度後期 受講生の皆さんようこそ！！**  
**大勢の出会いを大切に！ 広がる友の輪**



今期も延べ受講生数が 3,000 名を超えました。

**新規受講生 326 名 継続受講生 1,598 名**

今期はいつもより継続の受講生の割合が増えました。

初めて受講した人への“どこでアカデミーを知りましたか？”というアンケートでは

“友達に誘われて”という回答が、“公共施設にあったチラシを見て”と同じくらいの割合でした。

NPO では色々な施設にチラシを置いてもらえるよう努力をしていますが、無言のチラシよりも受講生の皆さまの“お誘いの一言”が仲間を増やす最強の手段です。

今後とも受講生の皆さまのお力添えをよろしく申し上げます。

## アンケート結果

今春実施いたしました NPO アンケートの際に多数の意見が寄せられました。NPO としては受講生の皆様の要望をできるだけ活かすように努めます。

### I. 昨年のアンケートで出された意見は、その後の運営にどう活かされたか？

1. カリキュラムに関する問題： 人気講座（例：日本史）の増加を望む。
2. 抽選についての要望： 抽選もれの人たちのための講座開設を望む。
3. 講座開設場所についての要望： 新百合・高津での講座の増加を望む。

《NPO の回答》 新百合会場の使用条件が変わったことによって、新たな講座を開ける時間枠ができ、「短期集中講座」として上記の要望に応える講座開設の取り組みを始めました。

4. 受講料についての要望： 値上げの根拠を十分に説明して欲しい。

《NPO の回答》 値上げについては NPO 理事会で真剣な検討を行い、アカデミー継続の為にやむをえない範囲に抑えました。また各講座・ワークショップで担当理事が説明を重ねました。それにより今年度のアンケート結果を見ると、説明を求める意見が減り、値上げに対する賛否も半々になる等、値上げの根拠についてはある程度理解されたと考えられます。

### 5. 世話人制度についての意見

- ① 世話人を辞めたい、やりたくない。 理由： カリキュラムの編成や講師との連絡が負担。
- ② 世話人になりやすい方策を 例： メリット（受講料減免）の導入 ② 負担の軽減

《NPO の回答》 世話人の負担軽減に向け、すべての講座・ワークショップにコーディネーターをつけました。また新会員制度を発足させ、世話人のスムーズな選出と交代の契機になるように努めました。しかし「世話人を引き受けたくない」との意見は依然として多くあります。世話人を対象としたアンケートを実施して現状の分析を進めるとともにメリット性の検討を行い、課題の解決に努めてゆきます。

### 6. NPO への要望

- ① 運営が不透明 ② しくみがわかり難い。③ NPO の活動をもっと PR せよ。
- ④ 活動の概要について説明会の開催を望む。

《NPO の回答》 NPO 通信や新受講生説明会で PR してきましたが十分な理解が得られたとは言いがたい結果でした。現在の広報を継続するとともに更なる広報のやり方を工夫してゆきます。

## Ⅱ. 今年度の意見・要望と対応



### 1. カリキュラムへの要望： 下記の提案がありました。

#### 複数提案テーマ

#### 《NPOとしての対応》

- 1) 日本の古典を学ぶ講座 . . . . . 文学講座で取り上げる予定です。
- 2) エコ発電やその開発研究・エネルギー問題 . . . 「暮らしの中の科学」後継候補のひとつとして考慮中です。
- 3) 天文学・宇宙科学・生態学 . . . . . 一部は「いのちの科学」に組み入れる試みを行ないます。
- 4) 仏教の原典を読む . . . . . 「人間学WS」に一部組み入れ済みです。
- 5) 絵画・音楽の見方・聴き方 . . . . . 「集中講座」のテーマとして取り上げることを検討します。
- 6) 江戸時代に興味がある . . . . . 「集中講座」のテーマとして取り上げることを検討します。

なおテーマの企画に関して「世話人の中から委員を選び、テーマを話し合う機関を制度化したい」との提案がありました。エクセレント委員会(仮称)で受講生の立場からのテーマ設定が如何にあるべきかを検討してゆき

### 2. 講座・ワークショップの内容： ① 難しい・統一性がない。② 講師の力量にバラツキがある。

《NPOの回答》コーディネーターの役割は非常に重要です。受講生の希望を反映できるようにコーディネーターと世話人、担当理事との意見の交換を密にする為の制度的な方策をさらに進めてゆきます。またコーディネーターの役割をより真剣に取り組んでいただく為の制度上の工夫にも取り組んでゆきます。NPO通信にも講座紹介とともにコーディネーターのカリキュラム編成についての方針・狙いを掲載してゆく予定です。

### 3. 講座・ワークショップの運営： ① レジユメは必ず出して欲しい。② 受講生同士の交流機会の増加

《NPOの回答》レジユメは受講生にとって講義を聴きながらその内容を理解する手掛かりであると同時に、後から読み返して講義を振り返る為の資料でもありますので、ある程度の内容が盛り込まれたものでありたいものです。学長名でコーディネーター及び講師に対してレジユメの提出をお願いしてゆく予定です。

受講生同士の交流については各ワークショップで実施しておりアカデミー全体では「受講生のつどい」を開催しています。各講座についても食事会等の交流機会を作ることを(半期ないしは1年1回程度)呼びかけてゆきます。

### 4. 学習環境： ① 狭い、暑い、音響がよくない。

《NPOの回答》401教室のマイクは修理していただきました。その他の問題も建物を管理する財団に改善をお願いしてゆきますが、解決は難しい面があります。この点の了解を受講生の皆様に訴え続けてゆきます。

### 5. NPOの対する意見・要望

①採算性重視が前面に出てきて、少人数講座の廃止などゆとりがなくなった。

②堅苦しく、縛られる事が多くなった。

③NPOの活動内容や会計のより一層の公開要請

《NPOの回答》アカデミーの継続性を重視せざるを得ない状況と属人から組織としての運営への転換期なのでやむを得ない面はありますが、不満の吸い上げをどの範囲でどのようにしてゆくかのやり方については検討してゆきます。またNPOに替わったことにより何が、どう変わったかに焦点を合わせた説明をしてゆきます。NPOの活動や会計はNPO総会で説明しているので是非ご出席下さい。今後はNPO通信でも概略を報告してゆきます。

## エクセレント委員会（仮称）委員の募集

受講生の立場からのテーマ設定が如何にあるべきかを検討する会として上記委員会を発足いたします。その際の委員（4名程度）を募集いたします。講座のテーマ設定に関心のある方の参加をお願いします。

### コーディネーターからのメッセージ

文学作品の中で作家たちはどのような眼差しで人間を観察し、表現したのか。その時々の中での作家たちはいかなる問題を先んじて提起していたのか。文学の歴史はどのように発展し、いまだどのような段階にあるのか。文学講座のカリキュラムづくりは、こうした問題意識に立ちながら、その時々に関心をキャッチし、面白そうなテーマを探す作業から始まります。若いとき教養として読んだ作品を長い人生体験の上に立って読み返す楽しさを味わう場にしたい、という欲張った願望もあります。

いくつかの案をつくり上げると、世話人の方々と話し合いを持ちます。世話人の方々は出来るだけ多くの受講生に聴講してほしいという思いが強く、「えっ、古典ですか」「講師は1人ですか、せめて3~4人にしてください」などといろいろな注文が飛び出します。それでも話し合っているうちにだんだんと合意形成ができて、テーマが決まります。

講師の交渉はコーディネーターに任されており、ここからは難儀の一人旅です。こちらの講座の日程が決まっているので、時間の都合がつかないこともままあります。また一から交渉です。こうして出来るだけ自分が納得のいく講座を仕上げていきます。これはすべての講座について言えることですが、カリキュラムは、外からは見えない努力の結晶なのです。

初期には文学講座は100人が集まる人気講座でした。最近では井上ひさしを取り上げた時に70人を超える受講生があったものの、50人前後で推移しています。そのことは、社会の中で文学がかつてのような魅力を持ち得ていないことの反映でもあったと考えてきました。しかし3・11以後、人と人のつながり、心の交感の大切さが再認識されています。おそらく文学を学ぶ意味は大きくなり、文学講座の意味合いも高まる、と私は思い始めています。

### 世界史講座 金曜日 午前10時30分より 生涯学習プラザ

「中国史Ⅰ 王朝の時代②隋・唐～清（アヘン戦争前）」立正大学教授 窪添 慶文（ほか）

2年間で中国4000年の歴史を学ぶことを目指しています。キーワードは「王朝」と「近代化」で、今年のテーマは「王朝の時代」です。

講座では、万里の長城を挟んだ漢民族と異民族との対立・抗争あるいは友好関係を含みながら、幾多の王朝が交代を繰り返す様子が語られます。隋・唐から明・清まで、そのいずれもが広大な領土を持ち、莫大な人口を有する「世界帝国」でした。この「世界帝国」という表現からは圧倒的な存在感が伝わってきます。この時代の中国は世界の一方の中心であり、世界史の主役のひとつであったことが実感できます。

今、中国の経済発展と世界進出が話題になりますが、アヘン戦争以後の近代化に向け苦闘する一時期を除いて、中国はまぎれもなく世界で1・2を争う大国で有り続けたのであって、今に始まったことではない。この講座で中国の王朝時代の歴史を学ぶと、そのことに改めて気づかされます。

## 文学講座 水曜日 午前 10 時 30 分より



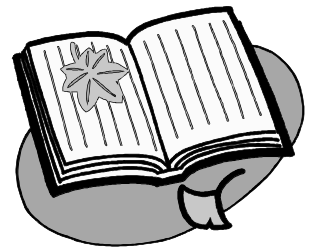
### 『作家と町』の 文学史（２） 東京大学名誉教授 川端香男里 ほか

文学講座はひとつのテーマに複数の講師をお招きして、色々な角度からのお話を伺っています。講師の先生が必ず決まっておっしゃる言葉は「私以外の方は超一流の先生ばかりですね。」と・・・。当のご本人も勿論超一流の方ですから、文学の講師陣は本当にすごいです。

文学は各個人の解釈、感じ方が許されその許容範囲が広いほど名作と言われます。作家の生い立ちなど私生活を絡めて作品をさぐっていく方法、テキストのみからその中に含まれる要素を追求する方法などがあります。作家の全作品を読み、ひとつの作品を何十回も読み、センテンス、単語を吟味した超一流の講師による文学作品の分析、解釈、考察を聞いて、改めてその作家、その作品の意味が解き明かされてゆく楽しさを毎回味わっています。

文学散歩では作品に描かれた場所、作家の育った町、住んだ町などを訪れ作品理解の助けにすると共に、テーマに即したその土地の探訪が出来、内容の濃い思い出深い一日が過ごせます。こんな贅沢な講座、受講しないなんて“もったいない”ですよ～～

## 文学ワークショップ 水曜日 午後 1 時 15 分より



### 『名作を精読するⅡ～中央線沿線の作家と作品』 早稲田大学名誉教授 東郷克美

○受講生構成：19名（男10名 女9名）

○進め方：毎回1冊の課題作品を各自が読み、感想意見などをまとめてくる。

前半1時間：受講生が感想意見を発表。（1人3分程度／事前指名者と自由発言）

後半1時間：講師による講義（受講生の意見・質問に関するコメントなども含む）

文学作品をひとつ読み終わると「ぼわ～ん」と何かを感じます。その感じたことを言葉や文章にしてみた事はありますか？

文学WSの課題図書は（薄くても）読み応えのある選りすぐりの作品ばかりです。自分がどう解釈したか、どう感じたか、考えさせられたこと、発見したことを発表します。そのときは勿論ドキドキですが皆さんここぞとばかりにドンドン発言します。自分が気付かなかった指摘があったり、全然違う捉えかた、感じ方をしているのでとてもビックリします。

その後先生の講義で作品のキーワードや隠されているものが解き明かされてゆきます。そして「なるほどそうだったのか！」「そんな解釈もありか」「私はそうとは思わない」などと思い返しながら帰り道にもう一度作品を反芻します。

文学作品の解釈はホントに自由です。結論も正解も永遠にありません。なくて良いのです。他の人たちが何を感じたか、それを知るのがとても面白いです。

### 『編集後記』 菊の香や 奈良には古き仏たち

秋も深まりました。受講生の皆様のご希望を反映できる紙面づくりに努めてゆきますので、引き続きご支援をお願い申し上げます。

編集責任者：折居 晃一、 田辺 初子、 眞田 強、 笹子 まさえ